

日本と中国の架け橋へ

～2013 年度自治体職員協力交流事業 (LGOTP) 中国人研修員の歓送会を開催～

北京事務所

はじめに

5月18日、北京市内のホテルで、2013年度の自治体職員協力交流事業 (LGOTP) により日本へ出発する中国人研修員の歓送会を実施しました。この事業は、1996年に開始以来、17年間にわたって日中の自治体・地方政府間の交流に貢献しており、昨年までに、のべ446名の方が参加しています。今年度日本へ派遣されるのは、雲南省麗江市や吉林省、遼寧省大連市などの地方政府職員10名です。国際政策や環境、看護、農業など、それぞれの専門分野で、半年から1年にわたり、様々な知識や技術の習得を目指します。

自治体職員協力交流事業 (LGOTP)

海外の地方自治体等の職員を「協力交流研修員」として日本の地方自治体に受け入れ、地方自治のノウハウ、技術の習得を図るとともに、受け入れ自治体の国際化施策等への協力を通じて地域の国際化を推進します。本事業は「人づくり」を通じた国際協力事業の一つであり、クレア及び総務省で、研修員の募集やあっせんなどの支援を行っています。

激励を受け、いざ日本へ出発

北京事務所が開催した歓送会には、10名の研修員の他、中国外交部や研修員OBの方にもご参加いただきました。研修員の皆さんの出発に先立ち、当事務所の田中所長が「両国の交流の架け橋となる皆さんが日本へ出発されることを心からうれしく思っています。日本での生活を楽しみ、存分にご活躍ください。」と激励の言葉を送りました。また、研修員を代表して福建省廈門市の黄さんが「身につけた知識と技術を帰国後の仕事に活用できるように一生懸命がんばります。帰国後は、周りのみんなに真実の日本の姿を伝えたいです。」と力強く抱負を語ってくれました。

翌19日、研修員の皆さんは、日本での研修や新生活への期待を胸に、元気に出発されました。皆さんの日本での活躍を心からお祈りします。



(北中所長補佐 仙台市派遣)